

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10122001				
授業名	仏教福祉論	形態	講義	単位	2
担当教員	藤森 雄介				
開講学期	2017年度 前学期	曜日・時限	木曜1限		
授業目的	我が国の社会福祉にしろる仏教福祉の総合的理解。				
授業内容	そもそも社会福祉の思想や実践の歴史的展開を学ぶにあたっては、「宗教」との関連を抜きに語ることができないことは、洋の東西に関わらない事実である。その前提に立って我が国の社会福祉をその歴史的展開過程から理解しようとするならば、仏教者の関わる福祉実践（いわゆる「仏教福祉」）を学ぶ必要があることに多くの説明を加える必要はないであろう。本科目では、先述の前提に立ち、我が国の社会福祉をその本質から理解していく上で必要不可欠な「仏教福祉」について、社会福祉と仏教福祉の思想的理論的な視点からの理解、仏教者による社会福祉実践の諸相、社会福祉の今日的課題に対する仏教福祉の果たすべき役割、といった複数の領域を取りあげることにより、「仏教福祉」の基本を正しく理解していく機会とする。				
到達目標	我が国の社会福祉にしろる仏教福祉を、理論的思想的視点に基づいた歴史的展開を学ぶことと合わせて、今日的課題と役割の理解を深める。				
ディプロマポリシーとの関連性	<社DP2-(1)> この科目を修得することで、「淑徳大学で社会福祉を学ぶ」ことの意義を知ることが出来るとともに、対人援助の本質の一旦を理解することが出来る。				
授業形態	基本的には講義形式で実施するが、講義中に取り上げる經典については、まずその引用部分を声に出して読み、その上でどのような内容が説かれているのかを考えて、その意見交換をしてから具体的な内容理解に入っていく。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間(2時間×1コマ×15週)+事前事後60時間 本科目では、原則として各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。合計15回の授業で、事前学習合計30時間、事後学習計30時間が必要となる。(ただし、講義内容の性格上、事前学習より、受講後の振り返りを含めた事後学習により比重が置かれる。)				
テキスト	『仏教社会福祉入門』 法蔵館 を、サブテキストとして使用予定。				
評価方法	確認テスト・授業中の小レポート・小テスト、および授業への参加状況から総合的に評価する。小レポートもしくは小テストは、講義内容の区切りに応じて、2回程度を予定。				
評価基準	確認テスト、70点、試験・授業中の課題小レポート20点。授業参加態度10点。 評価基準 : S:100~90点、A:89~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:60点未満 但し、平成21年度以前の入学生は、A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:60点未満				
試験・レポート等のフィードバック	レポートについては提出後のその出題意図を解説、また確認テストについてはテスト終了後、別途振り返りの時間を設ける。				
注意事項及び履修条件	本科目は社会福祉士受験科目ではないが、本学で社会福祉を学ぶものについては必須の知識を学ぶことが出来る科目である、主体的な学習意欲のある者の受講を期待する。				
S : 100~90、A : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、D : 60未満					
第1回					
事前学習	事前にウェブ上に公開されているシラバス内容に目を通しておく。				
授業内容	本科目の講義の進め方、評価の方法、各回のシラバス確認等を行う。				
事後学習	必ずしもテキストの章順に講義が進行するわけではないので、ガイダンスの説明に合わせて各回と使用テキストの該当箇所を確認しておく。				
参考文献					
第2回					
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教經典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらおう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。				
授業内容	仏教者が福祉実践を担っていくにあたり、仏教經典を手がかりにその動機となる仏教の教えを学んでいく。具体的には、スッタニパータ、ジャータカ、ダンマパダ、増一阿含經、善生經、遊行經、雜寶藏經、諸徳福田經、大般若波羅蜜多經、維摩經、法華經、無量壽經、金剛般若經、勝鬘經、といった各經典を取り上げていく。				
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分				

	からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第3回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	引き続き、仏教者が福祉実践を担っていくにあたり、仏教経典を手がかりにその動機となる仏教の教えを学んでいく。具体的には、文殊師利般涅槃経、瑜伽論、梵網経、大乘起信論、理趣経、大日経、金剛頂経、臨終正念訣、といった各経典を取り上げていく。また、アショーカ王、僧祇戸・僧祇粟、梁武帝、悲田養病坊、三階教、徳美、円光、といった、インド・中国・朝鮮の仏教福祉関連の人物や実践等についても合わせて学んでいく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第4回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	引き続き、仏教者が福祉実践を担っていくにあたり、仏教経典を手がかりにその動機となる仏教の教えを学ぶ。具体的には、聖徳太子、行基、施薬院、和気広虫、最澄、空海、日本霊異記、空也、千観、源信、重源、法然、鴨長明、明恵、親鸞、良忠、道元、叡尊・忍性、日蓮、一遍、鉄眼、了翁、浄土宗捨世派、無能、近世往生伝、白隠、慈雲、法道、といった内容を取り上げていく。でいく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第5回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	引き続き、近代日本における主に人物とその実践を中心に学ぶ。具体的には、福田行誠、釈雲照、志運、島地黙雷、奥村百合子、大内青巒、颯田本真尼、安達憲忠、井上円了、富士川遊、近角常観、渡辺海旭、綱脇龍妙、椎尾弁匡、矢吹慶輝、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第6回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	引き続き、近代日本における主に人物とその実践を中心に学ぶ。具体的には、福田会育児院、藤井日達、佐伯祐正、九条武子、妹尾義郎、長谷川良信、西光万吉、宮沢賢治、浅野研真、林文雄、大日本仏教慈善会財団、仏教同志会、浄土宗労働共済会、大谷派慈善協会、日蓮宗慈済会、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第7回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにし

	ておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	まず、戦後の社会福祉理論を代表する岡村重夫の理論の概要を学ぶ。「その社会福祉理論では七つの「社会生活の基本的欲求」（経済的安定、職業的安定、保険・医療の保障、教育の保障、社会参加ないし社会的協働の機会、文化・娯楽の機会）を充足させるために、社会制度との「社会関係」を結ばねばならないことを指摘。岡村は、社会関係を、個人の要求を充足させる個人的契機（社会関係の主體的局面）と、社会自身の存続・発展を可能にする社会的契機(社会関係の客體的側面)の二重構造が統一したものであるとしている」（『現代社会福祉辞典』有斐閣）といわれているが、この中に「宗教」の要素が含まれていない点に着目して、その理論の概要と課題を理解していきたい。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第8回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	前回の岡村重夫と、社会福祉理論に関する論争を行なった孝橋正一の理論の概要を学ぶ。「孝橋は、「社会福祉」という用語を用いずに「社会事業」という用語を用いて理論を展開した。資本主義制度の構造的必然の所産である社会的問題を、基本的・本質的な課題である「社会問題」と関係的・派生的な課題である「社会的問題」大別し、前者に対する社会的方策を「社会的政策」、後者に対する社会的方策を「社会事業」とよぶ。すなわち、「社会事業」は「社会政策」の限界から派生する社会的問題を対象とすることから、「社会事業」を「社会政策」に対して補完的な位置づけとし、また「社会事業」の本質は、「資本者擬態性の維持・温存」であるとした」（『現代社会福祉辞典』有斐閣）といわれているが、孝橋理論と岡村理論の論争のポイント、また、孝橋が一定の評価の上に立って位置づけていた「仏教社会事業」について、その理論の概要と課題を理解していきたい。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第9回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	前回、前々回での議論を踏まえつつ、現在議論されている仏教と福祉に関する理論を学ぶ。具体的には、対照的な理論を展開している水谷幸正、中垣昌美の両氏の内容を取り上げるとともに、日本仏教社会福祉学会等でも議論となっているポイント等について理解を深める。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第10回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	これまでの講義の内容を踏まえた上で、改めて現代における仏教社会福祉とは何かについて学ぶ。具体的には、仏教社会福祉原理としての仏教思想（仏教社会福祉と仏教福祉の違い、仏教の慈善活動と、社会事業・社会福祉の違い等含む）、仏教社会福祉の人間観、現代における仏教社会福祉、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第11回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらう場合があるので、しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにし

	ておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	仏教社会福祉の担い手とそれを支える思想、理論について学ぶ。具体的には、仏教の実践原理としての「支援論」、キリスト教との対比での仏教の「ソーシャルワーカー論」、「仏教ケア」という視点、といった内容を取り上げていく。また、いわゆる宗教の持つ「救済」という行為と福祉実践という観点も合わせて学ぶ機会としたい。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第12回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらおう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	現代社会が直面している諸課題に対して、仏教社会福祉はどのように対峙しているのか。またどうあるべきなのか。具体的事例も交えつつその実践内容や基本的な考え方等を学ぶ。具体的には、人間解放の仏教社会福祉（仏教と人間の尊厳、仏教の平等観、身分的差別と仏教、業思想と差別、部落解放運動と仏教）、いのちの輝きに生きる暮らしと仏教社会福祉（貧困対策と仏教、低所得者対策と仏教、格差・ニート・ひきこもり等と仏教）、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第13回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらおう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	引き続き、現代社会が直面している諸課題に対して、仏教社会福祉はどのように対峙しているのか。またどうあるべきなのか。具体的事例も交えつつその実践内容や基本的な考え方等を学ぶ。具体的には、いのちの共感に基づく医療・介護・高齢者福祉（仏教思想と医療・介護・高齢者福祉、ビハーラ活動による仏教社会福祉の実践）、いのちを育む子どもと家族の福祉、障がいを支える仏教社会福祉、共に支え合う仏教司法福祉、世界に開かれた仏教社会福祉、共に繋がり共に生きる地域福祉、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第14回	
事前学習	前回の内容を再度確認しておく。事前に配布した「仏教経典」に関しては、講義中、受講生に該当箇所を「音読」してもらおう場合があるので、)しっかりと目を通し、読めない専門用語等がないようにしておく。また「わからない箇所」も予め確認して、講義中に質問できるようにしておくこと。
授業内容	前回、前々回までの内容を踏まえた上で、仏教各宗派の動向を学ぶ。具体的には、天台宗、真言系、融通念仏宗、浄土宗、浄土真宗本願寺派、浄土真宗大谷派、時宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗等の各派の動向に加えて、仏教福祉を源流に持って現在も実践が継続している施設（埼玉育児院、成田学園、大念仏寺社会事業団）なども事例的に紹介しつつ、理解を深めていきたい。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第15回	
事前学習	これまでの講義の内容再確認を行い、確認テストに備える。
授業内容	まとめ・確認テストと解説。 これまでの講義のまとめとして、確認テストを実施及び解説を行う。 欠席者に対する追加の確認テスト等は、原則として実施しない。
事後学習	確認テストで出題された内容を手掛かりに、各自で振り返りを行う。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><社DP-2> 【社会福祉学分野における知識・技能・態度】 社会福祉学に関する価値、倫理、理論、方法を体系的に理解しそこから培われる福祉マインドを持って、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。</p> <p><社DP2-（1）> 社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。</p> <p><社DP2-（2）> 社会福祉の専門職（社会福祉士等）に足る社会福祉の知識と福祉マインドを持って、社会福祉をはじめ幅広い分野で活躍する意欲と能力を身に付けている。</p>
-----------	--